

# アジア防災会議2003

地球との共存—

しなやかな防災社会の構築に向けて

平成15年1月16日(木)  
～17日(金)

神戸国際会議場  
(神戸市中央区港島中町6-9-1)

国連国際防災戦略 (ISDR) 事務局  
内閣府、兵庫県、アジア防災センター、国際防災・人道支援協議会  
(アジア防災会議2003実行委員会)

# アジア防災会議2003

## 地球との共存-しなやかな防災社会の構築に向けて

1994年に横浜市で開催された「国連防災世界会議」において採択された「より安全な世界に向けての横浜戦略」とアクションプランの10年後のレビューが迫っています。このため、「アジア防災会議2003」を開催し、横浜戦略のレビューに向け、アジア地域の成果と課題を総括し、21世紀の新たな国際防災戦略の構築に貢献します。

また、アジア防災会議2003の一環として開催する「国際防災・人道支援シンポジウム」では、広範な関係者や市民の皆様と一緒に「しなやかな防災社会の構築」に向けて必要な視点や課題、将来の展望等について考察するとともに、2002年10月に発足した国際防災・人道支援協議会(神戸東部新都心等の国際関係機関によるゆるやかな連合体)の可能性等について議論します。

**日時** 平成15年1月16日(木)~17日(金)

**場所** 神戸国際会議場(神戸市中央区港島中町6-9-1)

**主催** 国連国際防災戦略(ISDR)事務局  
内閣府、兵庫県、アジア防災センター、国際防災・人道支援協議会  
(アジア防災会議2003実行委員会)

### プログラム

#### 1月16日 [一般公開]

14:00 開会式  
挨拶  
鴻池 祥肇 (防災担当大臣)  
井戸 敏三 (兵庫県知事)  
基調講演  
「アジアにおける国際防災戦略(ISDR)の  
取組状況と課題 - 世界防災白書からの提言 -」  
サルバノ・プリセーニョ  
(国連国際防災戦略(ISDR)事務局長)

15:00 休憩

15:30 国際防災・人道支援シンポジウム  
「地球との共存  
- しなやかな防災社会の構築に向けて」  
コーディネーター  
河田 恵昭  
(人と防災未来センター長/  
国際防災・人道支援協議会会長)  
ケニス・タッピング  
(京都大学客員教授)  
パネリスト  
スシマ・アイヤンガー  
(アピヤン事務局長)  
デイビッド・マメン  
(ニューヨーク行政研究所所長)  
隅田 栄亮  
(国際協力事業団理事)  
海津 正倫  
(名古屋大学環境学研究科教授)  
コメンテーター  
サルバノ・プリセーニョ  
(国連国際防災戦略(ISDR)事務局長)  
側嶋 秀展  
(外務省総合外交政策局国際社会協力部地球環境課長)

17:30 終了

#### 1月17日 [主に国際機関等関係者を対象]

9:00 パネルディスカッション  
「アジアにおける横浜戦略と  
行動計画の推進状況と提案」

11:00 休憩  
(「通信衛星を活用した  
被災地情報把握システム」実演)

13:30 テーマ別セッションA「都市災害」

15:00 休憩

15:10 テーマ別セッションB「水災害」

16:40 休憩

17:10 まとめ  
「横浜会議レビューへ向けての  
アジアからの提言」  
総括議長:山本繁太郎  
(内閣府政策統括官(防災担当))

17:40 閉会式



こうのいけ よしただ  
**鴻池 祥肇**  
防災担当大臣



い ど としぞう  
**井戸 敏三**  
兵庫県知事

## 基調講演講師



**サルバノ・プリセーニョ**  
国連国際防災戦略( ISDR )事務局長

1949年生まれ。1975年にパリ大学( )で公法博士号を、1984年にはハーバード大学で公共管理学修士号を取得。ベネズエラ環境天然資源省環境教育・国際部長、ハーバード大学エネルギー・環境政策センター客員研究員、国際自然保護連合教育コミュニケーション委員会事務局局長、国連環境計画カリブ環境プログラム調整官、国連砂漠化防止会議事務局代理を経て、2001年から現職。

## 国際防災・人道支援シンポジウム

### コーディネーター



かわた よしあき  
**河田 恵昭**  
人と防災未来センター長  
国際防災・人道支援協議会会長

1946年生まれ。京都大学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)。京都大学防災研究所助教授、ワシントン大学客員研究員、フルブライト上級研究員(プリンストン大学)等を経て、1996年5月から京都大学防災研究所巨大災害研究センター長。国の中央防災会議専門委員や自治体の各種委員会委員も多数務める。著書に「都市大災害」「大震災以後(共著)」など多数。2002年4月に人と防災未来センターの初代センター長に就任。同年10月には国際防災・人道支援協議会の会長に選任される。



**ケニス・タッピング**  
京都大学客員教授

1935年生まれ。カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校行政学部修士課程修了。カリフォルニア州サンベルナディーノ郡環境土木局計画部長、ロサンゼルス市計画局長、カンブリア市地域サービス区ジェネラルマネージャー、カリフォルニア工業大学客員教授等を経て、トッピング・アソシエーツを設立。2002年4月から現職。

### パネリスト



**スシマ・アイヤンガー**  
アビヤン事務局長

1963年生まれ。1985年マハラジャ・サラジラオ大学美術・英文学・比較文学科博士課程修了、1988年コーネル大学開発コミュニケーション科修士課程修了。1989年に女性支援組織KMVSを設立。1995年第4回世界女性会議に参加。1998年にカッチ地方を襲った竜巻災害の復興調整を行う協力組織としてアビヤンを設立。アビヤンは2001年インド西部地震においても海外のNGO、国連機関、現地行政機関との調整を行っている。



**デイビッド・マメン**  
ニューヨーク行政研究所所長

1952年生まれ。ペンシルバニア大学で都市計画修士号を取得後、行政研究所に勤務。1994年から現職。ニューヨーク大学ワグナー大学院では行政・都市計画非常勤教授を務める。国連居住計画専門家フォーラム実行委員会、国際住宅・都市計画連合(IFHP)事務局、米国連邦行政学会会員、アメリカ都市計画協会国際部長も務める。



すみだ まさひろ  
**隅田 栄亮**  
国際協力事業団理事

1944年生まれ。1968年関西学院大学経済学部卒業後、海外技術協力事業団に勤務。国際協力事業団ナイロビ海外事務所、医療協力部国際緊急援助室長等を経て、1995年タイ事務所長、1998年人事部長。2001年から現職。



うつみ まさとむ  
**海津 正倫**  
名古屋大学環境学研究科教授

1947年生まれ。東京大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)。愛媛大学教育学部助教授、名古屋大学文学部助教授、同教授、東京大学大学院理学系研究科教授(併任)等を経て、2001年から現職。専門の自然地理学・地形学等を基に「環境変動と人間活動」の課題にも取り組む。主な著書・発表等に「沖積低地の古環境学」「バングラディッシュのサイクロン災害」「地球規模変動に対する熱帯海岸環境の応答と対応戦略」など多数。

### コメンテーター



そばしま ひでのぶ  
**側嶋 秀展**  
外務省総合外交政策局  
国際社会協力部地球環境課長

1956年生まれ。1981年東京大学法学部卒業後、外務省に入省。アジア局南西アジア課、経済協力局技術協力課、海外経済協力基金等を経て、2000年経済局国際エネルギー課長、2002年から現職。

# 国際防災戦略 (ISDR) とは

## ■「国際防災の10年」の活動

1987年の国連総会において、1990年代を「国際防災の10年」とし、国際協調活動を通じ、全世界、特に開発途上国における自然災害の被害の大幅な軽減を図ろうとする決議案が、日本、モロッコをはじめとする93か国から共同提案され、全会一致で採択されました。

その後、国連を中心に様々な活動が展開され、国際防災の10年の中間年に当たる1994年には、それまでの活動の中間レビューと将来に向けた行動計画の立案等を目的として「国連防災世界会議」が横浜市で開催され、「より安全な世界に向けての横浜戦略」とアクションプランが採択されました。

この活動は、1999年末をもって終了し、国連事務総長報告においても、極めて有効かつ先駆的であったと称賛される一方、「国際防災の10年」中に実施された先駆的作業の継続が不可欠であること、災害予防戦略・災害予防の文化が重要であることが強調されました。

## ■新しい「国際防災戦略」の実施

このような状況を踏まえ、1999年12月の国連総会において、国際防災の10年を継承する新しい「国際防災戦略 (ISDR: International Strategy for Disaster Reduction)」活動を実施すること等が採択されました。

国際防災戦略の目的としては、①現代社会における災害対応力の強いコミュニティの形成、②災害後の対応中心から災害の予防・管理への進化の2点が、活動の骨格として、①現代社会における災害リスクについての普及・啓発、②災害防止に対する公的機関の主体的参画の促進、③災害に強いコミュニティの形成に向けた地域住民の参画の促進、④社会経済的損失の減少に向けた取り組みの強化等の4つの柱があげられています。

## ■日本の貢献

我が国においては、2000年12月に東京で「国際防災連絡会議拡大アジア会合」を開催し、アジア地域20か国の防災担当者等と意見交換を行ったほか、2001年2月には「世界防災会議2001」を兵庫県で開催し、阪神・淡路大震災を含む災害の教訓について、特に復興問題に着目しつつ意見交換を行いました。この会議では、国連、OECD、世界銀行の担当者が一堂に会するとともに、人道問題担当国連事務次長からメッセージが寄せられ、神戸が国際的な防災、人道援助の拠点として成長していくことを期待するとの展望が示されました。

さらに、2002年1月には、インド・ニューデリーにおいて、国際防災戦略事務局及びインド政府との共催で、アジアを中心とする諸国、ISDR事務局のほか、WHO、HABITAT、OCHAなど多数の国際機関の参加を得て、国際防災戦略 (UNISDR) アジア会合を開催し、アジア地域における国際防災活動方針について幅広い討議が行われました。なお、同会議の成果は、今後のアジア地域のISDR活動の展開にいかされるだけでなく、2002年8～9月に開催された「持続可能な開発に関する世界サミット (WSSD)」にも反映されました。

